**ハンドマイク街頭演説原稿例　　　国民投票法反対・コロナ対策**

二〇二一年五月六日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、衆議院憲法審査会での「国民投票法改定案」が可決されました。９条改憲の地ならしを狙った、今回の国民投票法案の採決に断固抗議します。コロナ禍で国民が苦しむなかで、究極の火事場泥棒ともいうべき今国会での国民投票法改定を阻止するため、引き続き国民と力を合わせてたたかいます。

繰り返す感染拡大は、憲法２５条の「生存権」の保障、２９条の「財産権」と正当な補償という憲法上の要請を無視してきた、まさに菅政権の無為無策の結果です。コロナ対応の不十分さは、決して憲法に問題があるからではありません。コロナ収束のために、菅政権は、日本国憲法を順守して政治の責任を果たすことこそ求めれています。日本共産党は、改憲の動きを決して許さず、憲法が生かされる政治の転換へ力を尽くします。

　みなさん、新型コロナの感染拡大は止まらず、東京都などでは三回めの緊急事態宣言が再延長の見通しとなっています。埼玉でも、「まん延防止」の対象地域は県南部を中心に１５市町にまで広がったものの、感染者が徐々に増えつつあります。高齢者へのワクチン接種が始まりましたが、国民への接種は他の国ぐにと比べて、きわめて遅れています。ここできちんとした対策をとらなければ、変異株が猛威を振るい、国民の命とくらしにとりかえしのつかない重大な事態を招きかねません。

　いま政府がやるべきことは、一日１０万件以上のモニタリング検査など、大規模検査を本気で実行すること、時短営業を強いられている飲食店への規模に応じた補償や持続化給付金の再支給など十分な補償をおこなうことではないでしょうか。さらに、医療機関へ減収補てんともに、コロナ病床を確保するための財政的な手立て、病院間の連携の手立てなどあらゆる手立てを国の責任でとることが、急がれています。そんな中、政府は東京オリンピック・パラリンピックをなんとしてでも開こうとしています。今政府がやるべきことは、ただちにオリンピック・パラリンピックの中止を決断し、すべての力をコロナ収束に集中することではないでしょうか。日本共産党は、コロナ対策を最優先に、国民の命とくらしを守るために、引き続き全力をつくします。

先日おこなわれた、三つの国会議員補欠選挙・再選挙で、野党統一候補がすべて当選を果たしました。この結果は、菅政権の新型コロナ対策の無策ぶりや、安倍政権以来の金権腐敗と政治の私物化に対する、国民の厳しい審判ではないでしょうか。野党が共闘すれば、来るべき総選挙でも菅自公政権を倒すことは十分可能です。日本共産党は、国民の命とくらしを守るために何としても政権交代をめざす決意です。市民と野党との共闘にぶれずにがんばる日本共産党を大きくしてください。みなさまのご支援をよろしくお願いします。

　最後に、スクープ連発で広く注目をあつめている「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）